



ドクターTのひとりごと その61

乳幼児教育のまち舞鶴

私は地方創生の推進には教育の充実が最も重要であると考えている。0歳～15歳（義務教育の修了）までの切れ目ない教育、とりわけ、就学前の乳幼児教育が重要であり、舞鶴市は乳幼児教育のまちとして充実させたい。子育てで「質」の充実を強調するのは乳幼児期が人格形成の基礎が培われる極めて重要な時期だからであり、このような思いで舞鶴市乳幼児教育ビジョンを策定した。乳幼児をもつ保護者の皆さんや乳幼児教育に関わる方には、ぜひともビジョンを熟読していただきたい。

テレビゲームに興ずる子ども達が多いが、これは子どもの成長に役立つのだろうか？暇つぶしや息抜き程度としては理解できるが、1時間以上続けるのは害になると思うのは私だけだろうか？子ども自身が興味・関心のあることをテーマとして、歳が異なる仲間たちと一緒に創意工夫して進めていく活動は、小学校以降の学びの土台となる好奇心や探究心、主体性そして社会性といった「学びに向かう力」が養われるが、これらの力がゲーム機に興ずる中で培われるとは到底思えない。中学生になる前までに、子ども達には各々が異なる能力を有することを理解させ、互いに助け合って生きる重要性を習得させる必要がある。そして、中学生からは友達間での切磋琢磨の重要性を教え、義務教育修了時には、社会に役立つ目標をもって巣立って欲しい。



図書館だより

今月のおすすめ本

あなたのその「忘れもの」コレで防げます 芳賀 繁

「顔は覚えているのに名前が出てこない」「パスワードを忘れた！」「子どもが忘れんぼう」などを、「忘れっぽいから」、「年だから」とあきらめないでください。心理学者が自宅、外出先、職場などよくあるシチュエーションごとに具体策を示します。 (西)



水を石油に変える人 山本五十六、不覚の一瞬 山本 一生

戦前、石油の8割をアメリカからの輸入に頼っていた日本。そうした時代に現れた「科学者」は、水をガソリンに変えるという。当時、海軍次官だった山本五十六らを見事だました詐欺師の正体は？戦争・石油・日本人をめぐる数奇な歴史ノンフィクション。 (東)



▶詳しくは、東図書館 (☎ 62・0190) 西図書館 (☎ 75・5406) へ。

未来への新たな一歩 ～舞鶴引揚記念館開館30周年～

舞鶴引揚記念館は、来年で開館30周年を迎えます。引き揚げの史実と平和の尊さを世界、未来へと発信する拠点として。また舞鶴の思いやりの心を伝える場所として30年の歴史を振り返り、次世代へ語り継ぐ新たな取り組みを紹介します。

建設のきっかけ — 再び舞鶴へ —

「生きて帰ってきた我々が、戦争の悲惨さを語り継ぐために形ある物をつくること」——引揚記念館の建設のきっかけとなったのは昭和60年夏、市に届いたシベリア抑留体験者からの1通の手紙でした。

舞鶴市ではその年の10月に「海外引揚40周年記念 引揚港“まいづる”を偲ぶ全国の集い」の開催を予定しており、そのことを知った徳島県在住の小林嘉吉さんが書かれたものです。

“全国の集い”は、引揚者の戦後の第1歩となった舞鶴を再び訪れてもらい、往時の労苦をしのぶとともに平和の尊さを心に刻む行事が5日間行われ、全国から、延べ1万人を超える参加がありました。平和を誓う記念式典やフェ

リーによる入港再現などを通じて、数十年ぶりに見る舞鶴の山々、思いがけない再会、平和の尊さの再確認など多くの感動があり、記念館建設への気運も一気に高まってきました。

この“全国の集い”の開催を強く願ったのは、引揚者を出迎える有志を集め、後に婦人会を組織し「引き揚げの母」と呼ばれた田端ハナさんです。引揚第1船から最終船まで心身ともに疲れ切った引揚者への、温かい声掛けや湯茶、ふかしイモの振る舞いなど、心づくしの出迎えの先頭に立ち、引揚事業終了後も平成18年に99歳で亡くなるまで引揚者との交流を続けてこられました。



▲田端ハナさん

こうして、引揚者、市民、舞鶴市の思いが1つになり、記念館建設に向け進むことになりましたが、着工までにはそれから2年を要することとなります。

《引揚記念館》



▲全国の集いポスター

「命は時間の量」

生涯現役を貫き「望ましい生き方と人生の終え方」を提唱した内科医、日野原重明さんが7月に105歳で亡くなりました。

日野原さんは58歳の時に、「よど号ハイジャック事件(※)」に遭遇し、その機中に乗り合わせていました。それは死をも覚悟された恐怖の4日間だったに違いありません。事件後「私は無事に帰還できた。解放されて空港の土を靴底で踏んだとき、生かされていることへの感謝の念とともに、今まで、内科医として、研究者として、自分の名を高めることを目標にしてきたが、これからは、許された第二の人生を自分以外のことのために捧げたい」と話し、その言葉どおり命と平和の大切さを社会に、そして次の世代に伝える活動に精力を傾けました。

新しいことに常に前向きに挑戦する高齢者を集めて「新老人の会」を発足させ、健やかで生きがいを感じられる生き方を提唱したり、子ども達に「いのちの授業」をしたり、本業の医師として病棟を回りながら温かい眼差しで患者さんに「あなた、大丈夫？」と声掛けをするなど、100歳間近にして、病院内外で積極的に活動し、その生き方は高齢社会を生きるモデル像でした。

「いのちの授業」では、子ども達に「命とは時間のこと。どうか一度しかない自分の時間、命をどのように使うかしっかり考えて生きていってほしい。さらに言えば、その命を自分以外の何かのために使うことを学んでほしい」と話していたそうです。人間は限られた時間を持つ生き物です。時間を無駄にするというのは、言い換えれば与えられた命を無駄にしているということになるのかもしれない。

私たちの身近には、雨の日も雪の日も子ども達の登下校を見守ってくれる人、道端のごみ拾いや草むしりをしてくれる人、被災地に向いてボランティア活動をする人など、なんの見返りを求めることもなく、自分の時間を人のため、社会のために使っている人たちがたくさんいます。生かされている今を大切に、限られた自分の時間をどのように使うか考えてみませんか。決して人と比べることなく自分基準でいいのです。

「なんと言っても人が人に与える最高のものは、心である」日野原さんの言葉です。 《人権啓発推進室》



※1970年(昭和45年)3月、赤軍派のメンバー9人が羽田発福岡行き旅客機を乗っ取った国内初のハイジャック事件。事件4日目、乗客は全員無事、韓国・金浦(きんぽ)空港で解放された。

簡単レシピ7手軽にヘルシー まいづるレシピ帖 VOL.15

「秋ナスは嫁に食わずな」ということわざを知っていますか。秋のナスは、もったいないから嫁には食べさせるなという姑の嫁いびりの言葉と言われており、それほどおいしいものだという事です。

実はもう一つ説があり、秋ナスは種が少なく子どもができないといけないので嫁には食べさせるなという嫁を大切に思う気持ちからとも言われ、心の温かさを感じます。今回はそんな秋ナスのことわざのとおり温かいレシピを紹介しします。

【協力】谷口久美子(食生活指導士)

材料 4人分

- ◆ナス…4本
- ◆クルミ…20g
- ◆ごま油…大さじ1
- ◆レタス…4枚
- ◆ミニトマト…4個
- ◆みそ…大さじ1.5
- ◆みりん…大さじ1
- ◆酒…大さじ1
- ◆砂糖…大さじ1.5

秋ナスのクルミ田楽



1人分 124kcal 塩分0.8g

作り方

- ①ナスはヘタを取り縦半分に切り、両面に5mm間隔で格子状に浅く切り込みを入れる。クルミは粗く刻んで、Aの合わせ調味料と混ぜ合わせておく。
- ②フライパンにごま油をひき、①のナスの内側を下に並べ入れ、蓋をして中火で焼き、焼き色がついたら裏返して、再び蓋をして弱火で約5分蒸し焼きにする。
- ③ナスの内側に①の合わせ調味料を塗り、180度のオーブンで約6分焼く。レタスを敷き、ナスを盛ってミニトマトを添える。